

セインズベリー日本藝術研究所は、ロバート・セインズベリーご夫妻の多大なる貢献により、1999年に設立されました。独立系慈善団体であるセインズベリー日本藝術研究所は、イースト・アングリア大学と提携しており、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院および大英博物館と協力関係にあります。日本列島の物質的および視覚的な文化の研究を促進することにより、同分野の国際的な研究の触媒的な役割を果たすことを目的としています。セインズベリー日本藝術研究所の目的は、世界中の学者に共同研究および積極的な研究ネットワークへの参加を促すこと、出版等により研究成果を公表すること、リサ・セインズベリー図書館を日本の美術、文化および考古学の主要な情報源として持続的に発展させることです。

日本大使からのメッセージ

21世紀の今日、学術研究機関の活動は、その分野に関係なく、着実に多様化・多角化しています。優れた研究者を集め、研究活動の場を提供し、その研究成果を世界へ発信するといった従来の役割の他に、研究者や他の研究機関とのパートナーシップの構築といった活動も必要となっています。こうした中、英国内外で日本の美術・文化および考古学に携わる研究機関同士の間を重視しているセインズベリー日本藝術研究所を高く評価します。

とりわけ、私が最も評価しているのは、セインズベリー日本藝術研究所の理事や職員が一流の研究施設を築き上げるばかりでなく、個人レベルでも各国の研究者との友好的な関係を維持していくことを常に心がけていることです。研究所の第三木曜日のレクチャーの盛況ぶりも、研究所が地域コミュニティの支持を得ていることの証です。さらに、イギリス東部にあるセインズベリー研究所本部の行事に、ロンドンやその他各地から英国在住の日本人が大勢訪れることからその盛況ぶりがうかがわれます。セインズベリー日本藝術研究所の成功および発展の秘訣のひとつは、手短かに連絡を済ませがちな現

代社会において、相手と直接向き合い、対話することの重要性を忘れていないことにあると思います。

この場をお借りして、ロバート・セインズベリー卿とリサ・セインズベリー夫人ご夫妻に敬意を表したいと思います。お二人の日本の文化および芸術に対する深い愛情および支援なしには、セインズベリー日本藝術研究所は存在しませんでした。また、ギャツビー財団の財政援助により、研究所の活動領域が拡大できたことにも深く感謝いたします。そして、セインズベリー日本藝術研究所に関心を持ち、様々な形で支援して下さる多くの方々にも感謝の言葉をささげたいと思います。

エリザベス・エステベ・コル女史と私が研究所の庭に植えたポニカ・ローズが華麗に咲き誇るように、また、研究所に隣接するノリッジ大聖堂が長年の風雪に耐え壮麗にそびえ立つように、セインズベリー日本藝術研究所もますます発展されるものと信じております。

野上義二
特命全権大使
在英国日本国大使館

理事長からの序文

7年あまりの間に、セインズベリー日本藝術研究所は素晴らしい発展を遂げました。研究所を創設した所長のニコル・クーリジ・ルーマニエール氏の指導の下、セインズベリー日本藝術研究所は、数々のネットワークおよびパートナーシップを築き上げました。ロバート・セインズベリー卿ご夫妻の多大なる資金援助に加え、ギャツビー財団による支援も研究所の様々な事業活動に役立てられ、大きな成果を上げています。

セインズベリー日本藝術研究所は、学術界において高い評価を受けています。ノリッジおよびイースト・アングリアの地域コミュニティにも親しまれており、第三木曜日のレクチャーなどの活動を通じて、地域における日本の芸術や文化に対する関心も高まっています。新たな研究活動の成果は、新旧の媒体を通して広く公表され、世界中に発信されています。

セインズベリー日本藝術研究所の研究プログラムは、様々な外部スポンサーの支援を受けており、研究活動を推進するために団体や個人との交流を積極的に行っています。所長ならびに職員・理事および理事会を代表して、セインズベリー卿ご夫妻の構想を実現させるために応援して下さる支援者・寄贈者の皆様に心から感謝申し上げます。

ビル・マクミラン教授

イースト・アングリア大学学長

セインズベリー日本藝術研究所理事長

所長メッセージ

セインズベリー日本藝術研究所は、設立から7年間、後援者であるロバート&リサ・セインズベリー卿ご夫妻の構想をもとに活動を行っています。1999年以降、セインズベリー研究所は、日本美術・文化の研究を推進するために創設されたユニークな研究機関として評価を受けています。ロバート・セインズベリーご夫妻からの基金を財政基盤とし、ギャツビー財団からの多大な資金援助をいただくことにより、現在までの成果を上げることも、2005年からの五カ年計画を実施することも可能となりました。また、東芝国際交流財団、国際交流基金、大和日英基金、グレイトブリテン・ササカワ財団および英国学士院等の法人からの助成、立命館大学や九州大学、アルザス日本学欧州研究所などの学術機関との共同プロジェクト、日本大使館からのサポートなどを通じて、多くのプログラムを実現することができました。

当研究所は、イギリス東部に位置するノリッジ市の大聖堂の敷地内にあり、リサ・セインズベリー図書館を中心とした本部を活動拠点としています。リサ・セインズベリー図書館は、多数の寄贈図書と収集の結果、短期間で欧州における日本芸術・文化の屈指の研究情報機関へと発展しました。これからも、新しい研究ネットワークを築き上げ、欧州における日本の芸術および考古学への関心を高めていき、それらを通じて、日本の芸術・文化に関する研究の普及・広報および活性などに努めています。

2005年11月にエリザベス・エステベ・コール女史は、英国および欧州における日本の文化芸術研究促進の功績が認められ、天皇陛下の代理として野上義二駐英日本大使より、旭日中綬章の栄誉を受けました。過去に、セインズベリー夫人も、英国における日本芸術発展の功績を認められ、勲章を授けられています。幸運なことに、この一年を通じ我々は日本大使および大使館職員の方々から絶大な協力をいただくことができました。我々の行事の成否は、研究機関パートナーのサポートに大きくかかっています。ロバート・セインズベリー卿ご夫妻の構想実現のためにご協力いただいている研究機関パートナー・資金提供者および支援者の皆様に大変感謝しております。セインズベリー日本藝術研究所を代表し、関係者の皆様の献身的な努力・情熱に感謝申し上げます。

ニコル・クーリジ・ルーマニエール

セインズベリー日本藝術研究所所長

リサ・セインズベリー図書館

研究所本部にあるリサ・セインズベリー図書館は、セインズベリー日本藝術研究所の中核的役割を果たすものと考えられています。図書館では、約25,000冊に上る図書・雑誌等の資料が1999年以降に収集されました。これは、日本の芸術・文化・考古学関連の所蔵資料としては、質・量ともに欧州でも指折りと目されています。さらに、セインズベリー日本藝術研究所では、SOAS図書館に対して年間交付金という形で、日本の版画、絵画、詩歌などの所蔵資料の充実を助成しています。

図書館の蔵書は、慶應義塾大学河合正朝教授のご尽力により各方面から寄贈をいただき、それを基にして開館準備を進めてきました。リサ・セインズベリー図書館は2003年に、折田正樹在英国日本国大使によって正式に開館しました。図書館の資料は目録化され、研究所のホームページを通じて世界中からアクセス可能となっています。2005年から2006年にかけて、リサ・セインズベリー図書館において新たな出来事がありました。まず、ギャツビー財団の資金援助により、図書館の近くに、考古学関係資料を収蔵する書庫がオープンしました。

国立国会図書館の「資料の国際交換」制度の下、日本の主要な展覧会図録や発掘調査報告書が国会図書館から送付されてくるようになりました。また、研究所の出版物は、国会図書館に送付され、国会図書館の資料として永久保存されます。

2006年1月には、東京文化財研究所の美術史家である故柳澤孝教授から数千点の仏教美術書が、8月には、トレバー・レゲット財団からは故トレバー・レゲット氏の旧蔵書が寄贈されました。また、ヒュー・コータッチ卿ご夫妻からも、モンタヌスのAtlas Japannensis (1670年刊) を含む貴重書を寄贈していただきました。(さらに、コータッチ卿ご夫妻からは、人間国宝の島岡達三氏の作品を含む陶磁器が、研究所に寄託されました。これらの作品の内数点が、セインズベリー視覚芸術センターにおいて展示されています。)

また、メトロポリタン東洋美術研究センターからの寄付金により、「国華」DVD-ROM版を購入しました。

2006年10月には、研究所1階にあるセミナー室を改装し、ノーフォーク・ノリッジ考古学協会 (Norfolk and Norwich Archaeological Society) の保有する資料を収蔵・閲覧できるようになりました。

ホームページ

当研究所のホームページは、現在、月に平均17万回と、多くの方々に利用していただいています。そのうちの数千回は、HPの複数ページへのアクセスや、掲載されている情報のダウンロードなど、長時間のご利用をいただいています。学会やレクチャーなどセインズベリー日本藝術研究所の事業活動を報知するとともに、関連研究機関サイトへのリンクを提供し、有用で効率的な情報提供手段となっています。また、リサ・セインズベリー図書館の蔵書目録のポータルや、SOAS図書館へのリンクといった機能も付随しています。ヒュー・コータッチ卿ご夫妻が図書館に寄託した古地図は、立命館大学アート・リサーチ・センターとの共同作業により、デジタル化され、研究所のホームページから検索・閲覧できるオンライン・データベースを構築しました。今後の計画としては、2007年に、日本語ページを立ち上げるほか、日本考古学に関する図書目録のデータベースを含むといったコンテンツを提供する予定です。

研究ネットワーク

研究ネットワークは、セインズベリー日本藝術研究所の研究戦略の中核を成すものです。イースト・アングリア大学、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院および大英博物館との提携に加えて、立命館大学、九州大学、新潟県立歴史博物館、フィッツウィリアム博物館、国際アルバニア考古学センターおよびアルザス日本学欧州研究所とも共同研究契約を結んでいます。その他多くの研究機関と連携しながら研究事業活動をおこなっています。セインズベリー日本藝術研究所の各種プロジェクトは、研究ネットワークを活用して国際的に活躍している研究者・研究機関との研究協力体制を確立し、調査活動を円滑にすることを目的としています。これらのプロジェクトには、「欧州の中の日本 (Collecting Japan in Europe) 」(担当: ニコル・クーリッジ・ルマニエール)、「日本の考古学および文化遺産プロジェクト (Japanese Archaeology and Cultural Heritage Projects)」(担当: サイモン・ケイナー)、「Japanese Literature in Art Colloquy」(担当: ジョン・T・カーペンター)などがあります。

イースト・アングリア大学

(University of East Anglia)

セインズベリー日本藝術研究所は、イースト・アングリア大学 (UEA)と緊密な関係にあります。同大学の学長は、当研究所の理事会理事長を務めていただいています。当研究所の所長および副所長は、共にUEAで世界芸術研究所および博物館学科で教えていた経験があり、2006年には、所長ニコル・ルーマニエールを指導教官とした日本美術史専攻学生の2名がUEAから博士号を取得しました。

ロンドン大学東洋アフリカ研究学院

(School of Oriental and African Studies,
University of London)

英国で最大の日本研究機関であるSchool of Oriental and African Studies (SOAS)は、セインズベリー日本藝術研究所の重要なパートナーです。共同研究契約の締結に並びSOASから学長・事務長をセインズベリー日本藝術研究所の理事会に迎え、SOASとのパートナーシップが正式に調印されました。当研究所は、SOASのブルネイ・ギャラリーにロンドン研究室を構えており、ロバート&リサ・セインズベリー・フェローおよびハンダ・フェロー専用の研究室も提供しています。所長および副所長は、SOASの日本芸術および考古学学科で教鞭をとっており、SOASの日本美術史講師のジョン・T・カーペンターは、セインズベリー日本藝術研究所のロンドン研究室室長を務めています。

大英博物館

セインズベリー日本藝術研究所設立以来、当研究所は、大英博物館、特にアジア部の日本セクションと緊密な関係を築いています。大英博物館の日本所蔵品は、その収藏品数・質および範囲において欧州最大を誇ります。2003年、セインズベリー研究所所長により、大英博物館の日本ギャラリーにて展覧会「日本の美 -かざり展：15世紀から19世紀の飾りによる日本」が開催されました。また、共同研究契約に基づき、セインズベリー日本藝術研究所のプロジェクト・マネージャである内田ひろみが日本セクションに出向し、日本セクション責任者のティモシー・クラーク氏と共に働いています。内田は、日本ギャラリーの改装および教育アウトリーチ・プログラムの開発の2つのプロジェクトに取り組んでいます。内田の出向は、初年度にギャツビー財団から資金援助を受け、以降は在英国日本国大使館の力添えで、在英日本商工会議所加盟団体から資金援助を受けています。また、当研究所の所長も、

5ヶ月間非常勤として大英博物館に派遣され、ティモシー・クラーク氏と共に、2006年10月に改装オープンした日本ギャラリーの、新たな常設展示「日本：有史前から現在まで」の準備作業に携わっていました。大英博物館およびセインズベリー研究所は、今後も展覧会やプロジェクトで共同研究作業を続けていく予定です。当研究所所長は、2007年7月から9月にジョセフE. ホータン・ギャラリーで開催予定の展示会「わざの美：日本の美術および工芸品50年」の客員学芸員を勤めます。

アルザス日本学欧州研究所

(Centre Européen d'Etudes Japonaises
d'Alsace)

欧州研究機関のネットワークをさらに拡大させるため、セインズベリー日本藝術研究所では、Centre Européen d'Etudes Japonaises d'Alsace (CEEJA)との研究協力関係の構築に取り組んでいます。セインズベリー研究所所長はCEEJAで数々のレクチャーを行っており、副所長は2004年12月に開催された第6回フランス日本研究学会に出席しました。2005年~2006年にかけて、アンドレ・クラインCEEJA所長によるノリッジ訪問や、セインズベリー研究所副所長およびハンダ日本考古学フェローの石川武が2007年の日本考古学共同研究計画のために訪問するなど、両機関の関係がさらに強化されました。セインズベリー日本藝術研究所と当研究所の提携研究学生、三笠宮彬子女王・前崎信也氏と共に、2006年11月に展示会「Alsace et Japon: Une Longue Histoire」を開催しました。

国際アルバニア考古学センター

(International Centre for Albanian
Archaeology)

セインズベリー日本藝術研究所は、2006年1月、リチャード・ホッジズ教授の下、International Centre for Albanian Archaeology (ICAA)メンバーを等研究所本部のある64 The Close に迎えました。ICAAとは、先史時代の土偶に関するプロジェクトを共同で研究しています。このテーマの国際ワークショップが2006年12月に当研究所で開催され、2009年にはセインズベリー視覚芸術センター(Sainsbury Centre for Visual Arts)で展覧会が開催される予定です。

九州大学

2005年2月、セインズベリー日本藝術研究所は、九州大学21世紀COEプログラム「東アジアと日本：交流と変容」との研究協力契約を結びました。プログラム・リーダーの今西祐一郎教授が、2005年春に、溝口孝司氏と共にノリッジを訪れました。5月には、副所長が九州大学でレクチャーを行い、2006年8月には、九州大学COEと9つの参加研究機関とのコンソーシアム契約の締結を記念した特別シンポジウムで、当研究所副所長は「日本考古学の国際化の側面」と題した論文を発表しました。溝口氏は、セインズベリー日本藝術研究所-大和日英基金-ジャパン・ソサエティのセミナー「文化遺産は重要か？」に参加し、UEA、SOAS、ケンブリッジ大学で日本考古学のレクチャーを行い、岡山大学の松木武彦氏と共に、ロンドン大学考古学研究所で、弥生時代の考古学に関するラウンドテーブル・ディスカッションに参加しました。

新潟県立歴史博物館

2005年10月、所長および副所長が長岡市にある新潟県立歴史博物館を訪れ、同博物館館長の小林達雄氏（國學院大学教授）と研究協力契約を締結しました。協力契約は、2001年にケンブリッジのフィッツウィリアム博物館において、当研究所副所長主催、新潟県立歴史博物館、國學院大学協力で行われた展覧会「火壺：中世日本の美術および景観」の成功を基にして成立しました。共同事業としては、本州中部の信濃川の歴史的景観の発展を調査する考古学フィールド研究プログラムなどがあげられます。

総合地球環境学研究所（京都）

セインズベリー日本藝術研究所は、文部科学省の大学共同利用機関である総合地球環境学研究所の景観考古学および歴史に関する新規総合研究プロジェクト（NEOMAP）の主要メンバーです。2005年10月に当研究所副所長が、京都で開かれた景観考古学に関するワークショップに参加し、また2006年6月にはプロジェクト・リーダーの内山純蔵氏がノリッジを訪れました。

立命館大学アート・リサーチ・センター (Art Research Center)

セインズベリー日本藝術研究所は、2005年春、京都の立命館大学のアート・リサーチ・センター（ARC）（文部科学省21世紀COE（Centre of Excellence）プログラム）と研究協力契約を締結しました。この契約締結により、アート・リサーチ・センターの川嶋将生教授および赤間亮教

授と当研究所の間の長期的な協力関係の構築が実現されました。2004年には、ヒュー・コータッチ卿ご夫妻からリサ・セインズベリー図書館に寄託された日本古地図を、ARCが高画像のデジタル・データベース化し、当研究所のホームページからアクセスできるようにしました。2006年3月には、立命館大学との共同作業により、「天皇の詩歌と消息：宸翰にみる書式」が、ジョン・T・カーベントナーおよび川嶋将生教授、源城政好教授、松本郁代氏、金子貴昭氏により出版されました。

研究ネットワーク：主なプロジェクト

欧州の中の日本

「欧州の中の日本」プロジェクトは、欧州の博物館やその他研究機関にある日本芸術作品を体系的に調査することを目的としています。2006年には、所長が、日本大使館での討論会に参加し、また国際交流基金ロンドン事務所およびヴィクトリア&アルバート美術館主催のセミナー「秘宝：日本芸術作品に関する英国博物館の役割と重要性」に出席しました。2004年秋には、イタリアのファエンツァ国際陶芸美術館での展覧会および出版プロジェクト「JIKI-日本の磁器 1610~1760」に携わりました。また、ギリシャ国立アジア博物館とも研究交流を続けています。同博物館館長は、当研究所と根付についての共同研究を行っており、今後も共催事業を予定しています。

4月には、副所長がセインズベリー・フェローや日本美術および考古学の学生たちを率いてオランダのライデンを訪れ、シーボルトの旧蔵品を見学しました。そして5月には、エディンバラのスコットランド国立博物館にあるマンローの所蔵品を見学し、日本のデザインがスコットランド建築に与えた影響を研究するため、チャールズ・レニー・マッキントッシュの出身校であり、その校舎が彼の代表作品でもあるグラスゴー芸術大学などを訪れました。

日本の考古学および文化遺産プロジェクト

「日本の考古学および文化遺産プロジェクト」は、共同フィールド・ワーク、所蔵品研究、シンポジウムおよび出版物を通じて日本考古学を促進させようというものです。ケンブリッジのフィッツウィリアム博物館で2001年に開催された縄文考古学展および2004年の「中世以降の日本

の都市考古学」国際会議の成功を基に、当研究所は、積極的に日本考古学の様々な側面、特に先史時代の土偶や河川景観の発展に関するプロジェクトの開発に取り組んでいます。そして、小林達雄教授によるJomon Reflections (サイモン・ケイナーおよび中村大編集) が2005年にOxbow Books社から出版され、2007年には中世都市の考古学に関する書籍の出版が予定されています。

Japanese Literature in Art Colloquy

Japanese Literature in Art Colloquy (JLAC) は、セインズベリー日本藝術研究所ロンドン研究室の後援の下、当研究所による研究および出版プログラムの中核のひとつとして、2002年に発足しました。セインズベリー日本藝術研究所の他のプログラムと同様、日本文化史研究に関する情報交換の触媒役または促進役となる研究機関を目指し、英国内外の研究者どうしの協力関係の構築を目的としています。

各プロジェクトには、通常、セインズベリー日本藝術研究所研究員、セインズベリー・フェローおよびハンダ・フェロー、SOASや大英博物館の日本専門家など、当研究所と交流の深い研究者が携わっています。通常、年に1、2回ほど、本格的なシンポジウムから小規模なワークショップまでといった自由な形式で、勉強会が開かれています。勉強会は日本藝術の文書と絵図の関係について新たなアプローチを試みるもので、特に、文学や舞台芸術と詩歌、絵画および版画との関連性に焦点を当てています。この勉強会の研究成果は、議事録、特定トピックの共同研究出版物、展覧会関連の出版物、セインズベリー日本藝術研究所のサーバーに保存されたオンライン画像データベースなど様々な形で公表されます。

「葛飾北斎とその時代」

当研究所ロンドン研究室長、ジョン・T・カーペンターが編集したイラスト豊富なこの書籍は、日本美術の著名専門家による論文15部を集めたもので、江戸時代を代表する画家、葛飾北斎(1760~1849)とその時代の美術および文学に関する最新の研究成果が著されています。この本は、セインズベリー日本藝術研究所、国際北斎研究所(ベニス大学)、アート・リサーチ・センター(立命館大学)の協力により出版されました。富嶽三十六景などドラマチックな景観描写の版画で世界的にも有名な葛飾北斎は、挿絵、性愛を扱った作品、摺物と呼ばれるプライベートな木版画にも長けていました。あまり知られていないところでは、

葛飾北斎は、浮世絵として売買されている遊興街の遊女の絵画だけでなく、歴史的、伝説的なテーマでも多くの優れた作品を残しています。本書は、多才な画家の大作を様々な側面から見直して、新たな一面を見出します。

近世日本の天皇詩歌

2006年晩春、京都の立命館大学アート・リサーチ・センター(ARC)とセインズベリー日本藝術研究所が共同で、日本詩歌および宮廷文化研究プロジェクトの一環として、近世日本の天皇・皇后の詩歌集を出版しました。本書は、2003年から2004年にジョン・T・カーペンターが京都滞在中にARCにおいて毎週開催された研究セミナーをもとに、カーペンターが主に執筆・編集したものです。主な内容として、鎌倉期の伏見天皇の広沢切の抜粋、光厳天皇および北御所の人々によって読まれた法華経をテーマにした詩歌「戒師」(重要文化財指定)、その他中世および近世の天皇および皇后に手になる詩歌や手紙が含まれています。散らし書き技法を含むすべての文書を解説し、宮廷で作られた多くの和歌が英訳されています。本プロジェクトは、主にアート・リサーチ・センターの21世紀COEプログラムの資金提供により実施されました。所蔵品のデジタル・アーカイブ化も、金子貴昭氏によって行われました。

摺物目録化プロジェクト

過去4年間にわたって、ジョン・T・カーペンター、跡見大学の岩田秀行教授、その他専門家が、欧州・日本および米国の所蔵品を対象に、摺物の研究を行いました。研究プロジェクトの主な目標のひとつは、江戸時代の浮世絵師である歌川国貞の摺物の解題付き類別目録を作成することでした。岩田秀行教授は、日本の文化庁から研究費および旅費の資金提供を受けました。岩田教授とカーペンターは、2006年4月に、300点に上る摺物に関する基本的なデータおよび筆写と共に、予備調査報告を発表しました。それには、今後の出版物の中核となるカーペンターによる3つの研究論文も含まれています。2003年のチュールヒ造形美術館での役者絵見学から誕生したプロジェクトでは、リートベルク美術館で展覧会を開催し、マリノ・ルシー所蔵の摺物(合計約300点)の目録を作成する計画です。所蔵品は、チュールヒのリートベルク美術館に寄託されています。このプロジェクトは、チュールヒの芸術・メディア・造形文化研究所が出資しています。日本、欧州および米国人専門家による江戸時代の絵画制作および大衆文学に関する論文を含む目録は、カーペンターが編集を担当します。

レクチャーおよびシンポジウム

レクチャー、シンポジウム、ワークショップ、学会の開催は、セインズベリー日本藝術研究所の重要な活動のひとつです。2005年～2006年のプログラムには、日本美術史専攻大学院生のためのワークショップPWJAH、第3回東芝日本文化レクチャー、ワークショップ「韓国と日本の展示」、日本考古学および文化遺産に関するセミナーなどがありました。当研究所では、2003年の日本初期の写真術に関する学会の議事録、書籍「Reflecting Truth」(ニコル・クーリジ・ルーマニエルおよびセインズベリー・フェローの平山美樹子編集 Hotei社、2004年) および2004年の中世都市の考古学に関する学会の会議録(2007年予定)の発行を予定しています。2006年には、セインズベリー日本藝術研究所と共同で、コロンビア大学出版会より、2003年の東芝日本文化レクチャーを基にした دونالد・キーン教授の「Frog in the Well: Portraits of Japan by Watanabe Kazan, 1793- 1841」が出版されました。

日本美術史専攻大学院生ワークショップ

(Postgraduate Workshop in Japanese Art History)
セインズベリー日本藝術研究所は、鹿島美術財団、東芝国際交流財団、国際交流基金、国際交流基金エンダウメント委員会、グレートブリテン・ササカワ財団、大和日英基金の多大な支援を受けて、ニコル・クーリジ・ルーマニエルの指導および内田ひろみ氏の支援の下、2006年6月19~26日にPostgraduate Workshop in Japanese Art History (PWJAH)を主催しました。

これは、1981年以来、日本と北米とで交互に「日本美術史ワークショップ」として開催されてきたもので、8回目の今回、初めて欧州で開催されました。30名の出席者の約1/3が欧州からの参加者で、欧州における日本美術史への関心が高まっていることを示しています。日本美術史の学位取得を目指している参加者は、セミナーで自分の専門分野を発表したほか、セインズベリー視覚芸術センター、大英博物館、ヴィクトリア&アルバート博物館を訪れ、日本の芸術作品を見学しました。

今回のワークショップには、日本からミホ・ミュージアム館長で東京大学元美術史学教授の辻惟雄教授や多摩美術大学の島尾新教授を含む日本美術史家も参加しました。

また、英国からは、SOASのタイモン・スクリーチ教授、アングス・ロッキヤー氏、ジョン・T・カーペンター、大英博物館日本セクション責任者のティモシー・クラーク氏、ロンドン芸術大学TrAIN研究センターの渡辺俊夫教授などの方々も参加しました。SOAS、オックスフォード大学、王立美術大学の学生の他、欧州からはプラハのカレル大学、ライデンやハイデルブルクの大学の若い学者たちが参加しました。北米からは、カリフォルニア大学バークレー校、ブリティッシュ・コロンビア大学、コロンビア大学、ハーバード大学、カンザス大学、スタンフォード大学、ウイスコンシン大学マディソン校などの様々な大学からの参加がありました。日本からは、同志社大学、学習院大学、立命館大学、多摩美術大学、東京芸術大学の他、九州、大阪、東京の大学から参加がありました。大英博物館のウィリアム・アンダーソン・コレクションから明治時代の写真、鎌倉時代の仏教図、皇室の磁器、清涼寺の釈迦堂縁起絵巻、東照宮の伝説など 様々な美術史をテーマにしたプレゼンテーションが行われました。

ワークショップは、若い世代の日本美術史家が研究ネットワークを構築し、今後の研究を発展させていくための絶好の機会となりました。内容豊富なプレゼンテーションは、日本美術史への関心が高まっていることの表れだと考えられます。

東芝日本文化レクチャー・シリーズ

東芝レクチャー・シリーズは、東芝国際交流財団のスポンサーにより、これまでに3回ロンドンとノリッジを会場として開催されました。このレクチャー・シリーズの共通のテーマは、「ある時代を代表する芸術家と、その芸術家が生きた時代の日本芸術について」です。2003年は、ドナルド・キーン教授による渡辺華山、2004年は、ジョン・ローゼンフィールド教授による俊乗坊重源、そして、2005年は、スミソニアン協会のフーリア美術館およびアーサー・M・サックラー美術館のルイズ・アリソン・コート館長による、土佐藩の陶工であった森田久右衛門について「より良い茶碗を目指して」と題しての講演でした。

レクチャー・シリーズのスポンサー東芝国際交流財団、レクチャーを支援していただいているジャパン・ソサエティ、レクチャーのための施設を提供していただいている大英博物館およびSOASに対して、セインズベリー日本藝術研究所よりお礼申し上げます。また、セインズベリー夫人には、大英博物館での初のレクチャーのレセプションを主催していただきました。

「韓国と日本の展示」

セインズベリー日本藝術研究所および大英博物館のアジア部によって、日韓友好年を記念して、「韓国と日本の展示」公開ワークショップが2005年11月10日に開催されました。9人の講演者が、美術館における韓国および日本の展示作品に関して、3部構成で講演がおこなわれました。第1部は、大英博物館アジア部学芸員のロバート・ノックス氏による紹介の後、オックスフォード大学のジェームス・ルイス氏が、先史時代から21世紀までの韓国と日本の関係および比較について講演しました。次に、ダーラム大学のジーナ・バーンズ教授は、考古学が遺物そのものの理解からその製造・伝播そして利用に関する地域性の理解に広がっていく過程について講演しました。そして、当研究所副所長が、ケーススタディーとして、大英博物館のゴードランド・コレクションの韓日先史時代作品について説明しました。

第2部は、シアトル美術館東洋美術部の白原由起子氏がシアトル美術館の韓日の所蔵品や展示品について説明し、韓国国立博物館の宣承慧氏が新しい美術館の紹介および日本ギャラリーに関する問題点について説明しました。第3部は、ベス・マックキロップ氏、アナ・ジャクソン氏、ジェーン・ポータル氏、ティモシー・クラーク氏が、ヴィクトリア&アルバート美術館および大英博物館の所蔵品について説明しました。発表の後、スミソニアン協会のルイス・A・コート氏、慶慶應大学の河合正朝教授、SOASの朴英叔氏の3名によるディスカッションが行われました。最後に、中田統一監督の「大阪ストーリー」（1994年）が上映されました。

文化遺産は重要か？

2005年のセミナー・シリーズの一環として9月21日に開催された大和日英基金での英国および日本の芸術、文化そして社会に関するセミナーで、セインズベリー日本藝術研究所は、「文化遺産は重要か：日本および欧州において過去は現在に役立っているか？」と題したセミナーを主催しました。4人のパネリストは、グローバル化が進む中、国家遺産の重要性を強調し、日本および欧州における遺産の文化的・社会的役割について講演しました。全政党国会考古学委員会 (All Party Parliamentary Archaeology Group) 事務局長のルパート・リーズデール卿は、現在の英国の遺跡名所に関する情報を紹介しました。九州大学大学院人文科学研究院の溝口孝司氏は、現代日本における遺産の社会的論理体系について講演しました。イースト・アングリア大学国際アルバニア考古学センター所長の

リチャード・ホッジズ教授は、アルバニア・ブトrintoの世界遺産での調査を通じて、遺産がもたらす経済的・文化的貢献について実証しました。イースト・アングリア大学教授で大英博物館国際アフリカプログラムの責任者でもあるジョン・マック教授は、先の講演に関連して、ウェールズの具体例を挙げて講演しました。その後のディスカッションでは、遺産プロジェクトに公的資金を投入することの正当性、遺産政策の効果などについて討議しました。

世界考古学会議での先史時代の土偶

副所長サイモン・ケイナーの企画によるセインズベリー日本藝術研究所のワークショップが、世界考古学会議内のセッションとして、2006年1月14日に大阪歴史博物館で開催されました。「卓越した象徴：伝統、因習打破、人間と動物の共生」に関する6つの論文が発表されました。このセッションを契機に、先史時代の土偶に関する考古学の新たな共同研究プロジェクトが、セインズベリー日本藝術研究所および国際アルバニア考古学センター (ICAA) の間で始まりました。大阪会議と前後して、サイモン・ケイナーおよびローレンツ・ベジコ氏が関東および関西地方の博物館を訪れ、新たなSISJAC-ICAA土偶研究の可能性について考察しました。

文化、自然および景観の考古学

日本の考古学に関するワークショップが、二日間にわたりノリッジおよびケンブリッジで2006年6月16~17日に開催されました。初日は、ノリッジで「日本の景観考古学の新たな方向性」というテーマの下、欧州および日本の考古学研究者が参加しました。二日目のワークショップは、ケンブリッジ大学マクドナルド考古学研究所にて、「日本および欧州の考古学における文化と自然」と題して開催されました。ここでは、自然と文化との境界をどのように形作ってきたのかを、欧州と日本との伝統の上から比較するという発表がおこなわれました。

フェローシップ

セインズベリー日本藝術研究所では、若手研究者による日本の芸術および考古学研究の推進を目的に奨学金制度を設けています。この制度には、ロバート&リサ・セインズベリー・フェローシップ、ハンダ・フェローシップおよびハンダ日本考古学フェローシップの3種類があります。

ロバート&リサ・セインズベリー・フェローシップは、北米で活躍する日本美術史研究者を対象とし、2名の若手研究者を1年間英国に招聘するものです。この奨学金は、セインズベリー卿の資金提供により2000年に創設されました。

ハンダ・フェローシップおよびハンダ日本考古学フェローシップは、半田晴久氏の資金提供のもと、学術成果を日本語で発表している日本美術史および考古学研究者を対象にしています。

セインズベリー研究所のフェローシップは、若手研究者の研究活動を助成し、出版物による研究成果の発表を目的にしています。

2000年以降、19名の奨学研究者がフェローシップ・プログラムを活用して、様々な分野の研究に取り組んできました。セインズベリー・フェローおよびハンダ・フェローは、SOASにあるセインズベリー研究所のロンドン研究室を活動拠点としています。奨学研究者は、研究活動のほかに、SOAS、イースト・アングリア大学、セインズベリー研究所などで、講演・研究発表などもおこなっています。

第三木曜日レクチャー・シリーズ

当研究所で最も盛況を博している活動が、ノリッジで毎月第三木曜日に開催されるレクチャー・シリーズです。セインズベリー日本藝術研究所が現在の施設に移転した直後の2001年11月に、第一回目のレクチャーがおこなわれて以来、毎月定例で開催されています。昨今では、レクチャーの受講者が研究所図書館閲覧室に入りきれないほどの人気となり、デジタル・カメラによって別室でも聴講できるように対応しているほどです。

レクチャーは2002年以降、グレートブリテン・ササカワ財団がスポンサーになっており、2003年以降、ロバート&リサ・セインズベリー財団からも同額の資金援助をいただいています。研究所では国際的に活躍する研究者をノリッジに招き、さまざまなテーマについて講演をお願いします。

大英博物館の活動とクラブ大使館

ロンドンの大英博物館アジア部日本セクションに出向している内田ひろみは、大英博物館の学習プログラムの教材作成に取り組んでいるほか、学習情報部や他の研究機関等と連携して作業を行っています。内田が取り組んでいるこのプログラムは、在英日本商工会議所の主催で行われています。2005年夏に、人間国宝の中村鴈治郎（現在、四代目坂田藤十郎）氏が大英博物館を訪れた際には、様々な行事の企画・準備を行いました。さらに、内田はロンドンの日本大使館と共同で、青少年に日本の芸術や文化を紹介する「クラブ大使館」の企画・運営もしています。



64 The Close
Norwich NR1 4DH
United Kingdom
T +44 (0)1603 624349
F +22 (0)1603 625011

B401, Brunei Gallery
SOAS, University of London
Russell Square
London WC1H 0XG
United Kingdom
T +44 (0)20 78984467
F +44 (0)20 78984429

Registered charity no. 1073416
www.sainsbury-institute.org
sisjac@sainsbury-institute.org